

た（笑）。

そう、忘れていた過去は、私と共に、墓場に行くべきなのだ（笑）

過去

2005/04/02

ALSになったことで、本当に感謝していることが一つある。それは、「過去の整理のための時間」を与えられたことだ。

「恥跡録」にまとめているような、過去の自分の作品のことではない。これはこれで、自分なりには興味深いのだが、事故や突然死した場合は、死んでしまえばどうでもいいというか、まとめる時間がないとしても、それはそれで済むことだ。

しかし、高知で、過去の作品を探している過程で、「いろいろな過去」を見つけてしまった。

貰った写真や、手紙類だ。こういう物は、「その項目」が終結した時点（笑）で整理して捨てていたつもりだったのだが、10代のころをを中心に大量に見つかってしまったのだ。

「自分だけで完結する過去」はほとんどない。ある人間の過去は、かならずだれかの過去と絡んでいる。というより、「他の人との関わり方」こそが過去なのだと思う。

手紙で言えば、私の過去は相手の所に行き、相手の過去は私の処に保存されている。

ずっとひっかかっていた過去も有れば、名前を見て、あっ、こんな過去もあったのだと思い出した過去もある。中には、記憶を辿ってやっと思い出す過去もある。

でも、同じ時間を共有したのだろうが、おそらくその時間は、私と、相手では違う時間であったであろうし、その違いは、時間の経過と共に、拡大していったはずだ。

突然現れた30年前の過去に、私はしばらく呆然とした。何通かの手紙を見た後、結局、私は残りを見るのをやめた。過去は過去だ。しかも大切な過去だ。しかし、過去は終わったものだ。それを振り返ることは大事だが、残すものではないはずだ。過去は、私の心と頭の中にさえあればよいし、それは、私の死と共に消えるべきものだ。

もし、私の記憶が、家族やだれかの心に残ってくれるとしたら、それは、その人の過去だ。

私の心と頭の中に残る「過去」以外の「物理的過去」を消去しておくこと、それが、私の一つの責務だと思う。

ミカン箱2つ半の、3年間の過去は、ゴミ処理され

制度的ボッタクリ

2005/04/05

介護道具を二つ購入した。

一つは、首の筋力低下に対する、首の支持具だ。イメージ的には、肩や胸郭で首を支える本格的な物を想定していたが、それに近い物は、装着が非常に面倒で、特にひとり暮らしの予定がある私には、とても使いこなせない物だった。結局、フィラデルフィアカラーという、むち打ち症にも使われているものにした。

<http://www.orthocorp.co.jp/philadelphia.jpg>
ただ、これには、気管切開用に穴があるタイプと無いタイプがあるらしいのだが、私は知らずに穴のないタイプを買ってしまった。夏は、汗まみれになりそうだ(笑)。

しかも、買った後で、日本ALS協会の機関誌で、ヘッドマスターカラーというのを推薦していたことを知った。

<http://www.jade.dti.ne.jp/~jalsa/gif/jalsa64.pdf>

の41頁(82P)にあるものだ。

どうも、フィラデルフィアカラーは今ひとつしっくり来なくて、常時付けている気にはならない。

もう一つが、唾液吸引機だ。

<http://www.sea-star.com/j/items/airpump.html>
人工呼吸器を付けているわけではないので不可欠というわけではないが、唾液の滞留が不快なので、購入してみた。

これがなかなか使える。ちょうど、ALSになってはじめて鼻風邪を引いており、不快感がかなり増大している最中であったこともあり、重宝した。

唾液だけではなく、鼻汁も吸い込むパワーがあり、鼻の奥や、喉の奥にもカテーテルを突っ込んでしまった(笑)。ただし、粘液質の強い物を吸い込んだ場合は、すぐに大量の水を通して掃除しなければいけないが・・・

で、驚いたのが値段だ。

前者はウレタンを整形したもので、ある意味安っぽいのだが、なんと22000円以上。後者は、ALSの介護現場の方が、必要に迫られ、熱帯魚などの水槽用ポンプを改造した物がルーツのようで、税込み5250円だ。

もちろん、「型」をつくるのにかなりの金がかかるのは理解する。しかし、頸椎カラーは、鞭打ち症など

需要も多いはずで、開発費用の回収はとっくに済んだはずで、原料費は非常に少ないはずだ。

後者は、ひとつは「一体型」ではなく、ペットボトルなどを流用するため、「形を作る費用」はゼロである上に、現在は介護用品メーカーが販売しているにしても、開発の経緯があるために、おそらく利益がほとんど無い程度の価格で提供されているのだと思う。

同じ機能を持った「形の良い唾液吸引機」だと、おそらく10万円くらいかかるような気がする。

問題なのは、前者は保険が効くという点だ。国保なら7割が保険代から出て、自己負担は7000円弱。装具は「特定疾患」での補助は出ないが、重度心身障害の方で、自己負担分もゼロになる場合もある。22000円という「どう考えても納得のいかない価格」も、保険が効くから良いと言うのだろう。そして、その価格の中には「保険で認定されるための様々なテストや手続き」のコストも入っているのだろう。そして、一旦、その値段になれば、価格競争なんて無用なわけだ。

それに対して、低価格でずっと役に立つであろう、唾液吸引機は、保険が効かずに、全額自費だ。保険が効くようにするためのコストをかけるほどの需要もないのだろう。

介護用品のボッタクリ的価格の一因は、弱みに付け込むという点以外に、こういう制度的な問題もあるのだと思う。

本来の「解脱」が「輪廻の歯車からの脱却」だった
ということ、理解しはじめたような気もするのだ。

悠久

2005/05/05

高知に居る。
しかも誕生日だ。

最近、無性に大きなものを見たい。
最後に日本海を見たくて、ひとりで走る予定は仕事のこともあり少々延期になったが。
宇宙論やガイア仮説や、量子力学を勉強しなおしている。
超マクロと超ミクロの世界だ。
50億年の歴史の中で、わたしの歴史は1億分の1に過ぎないと考えると、少し安らぐ様な気もする。
実は、同じ事を考えて、恐怖に涙していた小学生だったはずなのだが、これも、歳を経て、それなりに納得する時間を過ごしてきたせいなのだろうか。

ALSは、着実に進行している。
一月前の診断で、左手親指の脱力が発見され、その後、両手に進行してきた。もっとも、指は動くし、握力もそれほど落ちてはない、ただ、上に持ちあげる力が、確実に衰えてきている。
そのため、洗髪がきつくなってきたそのうち坊主にしようかと思う。外に出なくなったら、恥ずかしくないしな（笑）

作家を志していた。作家は、神の目が必要だ。苦しみ、のたうち、死んでいく自分が居て、それを冷静に見つめる自分が居て、そしてそれを記述する自分が居る。
成長期が、能力の獲得なら、老衰期は能力の喪失だ。
幸いなことに、肉体的能力の喪失とそれを認識する知能の喪失は、完全ではないにしろ、並行して進むのだが、ALSは、肉体的喪失のみが進み、それをみつめる明晰な認識力は残るらしい。
そのことが、非常な苦痛なのか、それとも、幸いなのか、まだ、実感として、わかりはじめたばかりだ。

ただひとつ、言葉を発することを失ったとき、例えば、人と逢うと言うことは、抱き締め合うことしか残されていないような気がしはじめている。

性は、もしかすると、根源的なコミュニケーションなかもしれない。

でも、どちらにしても、宇宙の悠久さの中で、瞬間を生きてきて、瞬間に消えていく。

制度と運用

2005/05/14

体が動く間に、少しでも多くものを見たいと思っている。今月末には、東北の下北・津軽をメインに、もしかしたら、北海道と日本海をも含めて、回りたいと思っている。

幸いなことに、高速道路代金が身障者割引で半額になるという制度があるので、ありがたく利用させていただくつもりだった。

身障者手帳の交付が、前回、高知から埼玉へ帰るのに間に合ったので、早速利用させていただいて、見事に半額になった。

ところが、今回、高知へ帰るのに、高速を利用したら、最初の出口で、突然止められた。「この身障者手帳に、車の登録がないから割引は出来ない」というのだ。

前回は何の問題もなく、割引を受けたが、いつ制度が変わったのか？ と筆談で聞いたら、去年の春だという。

後続の車に迷惑になるので、ゲートを出て、係員と筆談で話をした。

たしかに、身障者手帳の交付を受けとったのは、自分ではなく、妻が代理で受けとったので詳しい説明は受けていないが、もし、登録が必要なら、登録の時間はいっぱいあったし、もし「最初の利用時にそのことを指摘されていれば当然登録している」と抗議し、どうやら、手帳の本人と車の所有者が同一でないと問題になるらしいので、私名義の車検証も見せたが、無駄だった。

「規則だから」の一点張りだった。

その後、高知へ着き、また、埼玉へ帰ってくるまでに、道路公団のゲートを5回、合計で6回通過した。

(首都高速と阪神高速等は、登録が不要のようで、手帳の中身も見なかった)

6回の内、1回は、本人確認だけで半額、3回は登録がないと指摘された上で、車検証を見せたり、事情説明したら、「必ず埼玉に帰ったら市役所で手続きをしてください」と注意された上で割り引いてくれた。割引を拒否されたのが、最初のケースを含めて2回だった。

公団の職員としては「拒否する係員」が優秀なのだろうが、「身障者割引」の本意からすると、人間としては、忠告の上、割り引いてくれた3人の係員の優

しさに感謝する。

帰埼玉後、月に数回は行っている身障者の窓口で、すぐに手続きをした。車検証を見せて、小さなハンコを押して貰って、有効期限と車のナンバーを書き入ただけだった……。知っていたら、埼玉を出る前にいつでも手続きできたのに……

実は、もうひとつ解せない制度がある。

身障者には、自動車税の減免の制度があり、私のような発語障害の場合も該当する。

ところが、県税事務所へ行くと「咽頭摘出手術した人のみ」だという。

もしかすると、「発語障害を装う偽物」が居たり、あるいは、発語障害は一時的なもので、いつ、治るかわからない人が居るからかもしれない。

咽頭を摘出していけば、元に戻ることがない証拠にはなるだろう(笑)

だが、ALSの場合も。発音障害が元に戻ることはない。身障者手帳や特定疾患認定にも、ALSであることは明記されている。

この点については、厚生労働省に「同じ不治の発語障害でありながら、ALSに認められないのは何故か？」と問合せ中だ。

たしかに、私のように、ALSを発症しながら、発語障害が先行して、何とか歩けたり、自分で運転できる患者は少ないのかも知れない。

動けなくなるまで、待て、ということか(笑)

ひとりで

2005/05/14

埼玉での一人暮らしが始まった。

妻と息子は、母の介護と、将来私が動けなくなったときに帰ることに備えて、高知へ移転した。

本当は、息子は私と同行して、埼玉で同居する予定だったのだが、帰埼玉する数日前に小さな行き違いがあった。その中で、埼玉へ同行することは、病気が進行していく私の状況から、息子への負担が増大して、息子の勉学の妨げになる恐れがあること、本当に納得していない限り、小さな行き違いは増大するしかないであろう、という2点から、息子には高知に残って貰うと決断した。

もちろん、私の我が儘であり、勝手だ。そんなことはわかっている（笑）。

だが、「わかろうとしている人に、わかって貰おう」とする甘えはあるが、「その気が無い人にわかって欲しい」という甘えはない（笑）。例え、それが血がつながって、仲のいい息子であつてもだ（笑）。

高知から埼玉へ帰る途中、あるいは今後何回か予定している、見納めドライブで一番困っていた食事の問題、つまり、もう、ほとんど外食できないという問題は、なんとか解決した。レトルトのおかゆに、レトルトの玉子丼やカレーをぶちかけるのだ（笑）。もちろん冷たいままだが、食えなくはないし、使い捨ての丼やスプーンもある。薬はもちろん、プリンやゼリーと一緒に丸飲みする。

ただ、いくつか問題もある。

レトルトの製品によっては、手の力の弱りで切れなくなっていて鋏が要る（笑）。

また、どうも、歩くときのバランスの悪さは、首のせいではなく、足自体が弱りはじめているみたいで、長時間の運転の疲れで、胃液の逆流とともに、歩くのが自分でも喜劇のようだ（笑）

バランスの問題は、昨夜、久しぶりに買い物に自転車に乗ろうとして、バランスを失って、無様に倒れてしまった。かつて、中一時代から、四国一周を手始めに、北海道からの日本半縦断など、自転車野郎だった自分には恥ずかしい話だ（笑）。さいわい強打はしなかったが、後頭部を打ってしまった。自転車はもう封印だ。

あとは、重いモノを持ってない、うつむくと辛いので掃除が厳しい、洗髪も少し困難になってきた。風呂は、シャワーだけにすることにした（笑）

この状態が進行すると、一人暮らしの限度がくるのは、それほど遠くないかも知れない。

でも、以前書いたように、「撤退の決断の勇気」は持っているつもりだ。

もっとも、誰にも迷惑を掛けないままで、という選択肢もあり、それは、保持しておく（笑）

早ければ夏まで、持って、秋なのかなという気がしている（笑）

記憶の濃淡

2005/05/16

15才から20才くらいの間の、詩やエッセイなど公表した作品を集めて、「恥跡録」としてまとめている。

今回、高知の市民図書館や県民図書館で。もう見つからないと思っていた自分の個人作品集を発見した。この作品集を出版したのは、高校中退後の18才の終わりの頃だ。

自分でも驚くくらいに、今の自分と、感性も、思考系統も一緒だ(笑)

進歩か無いと笑うべきか、貫徹した、と感心すべきか、微妙なところだ(笑)

それにしても、書いた覚えがない物まで出てきた。あるいは、書いた覚えはあるが、内容を忘れていた物もある。

そのくせ、読み返してみると、文章の中に、鮮明に覚えているシーンがある。「ブルースが唄えるかも」のシーンもそうだ。

「感情的音楽論」の「あるいは童話～」の中のシーンなんかあまりにも鮮明だ。夜汽車、雨の中の橋通り、そして仙台に帰った翌日に土讃本線が不通になったこと。何もかもが、鮮明だ。

ALSのおかげで、過去を振り返る余裕が出来たことに感謝しているのは本音だ。

ただ、先日、また発見された手紙類にも、記憶の濃淡がある。

私の個人作品集が売れたのは、当時のラジオ番組に出演・もしくは出演したせいのようなのだが(番組宛の手紙がかなり見つかった)、全く記憶にない。

そのくせ、仙台で初めて、ラジオの帯番組を持った時の(1クールで降ろされたが(笑))第一回の時の取材の様子は憶えている。

フォークで賞も幾つか取ったみたいなのだが憶えてない(笑)

過去の作品を集めることは、集積なのだろうか?

それとも、集めることによって、私の中からそぎ落としているのだろうか?

最後に残る記憶は、何なのだろうか?

誰なのだろうか?

抱き締めたい。

涙と呪い

2005/05/20

涙もろくなってきているのは自覚していた。福知山線の事故のニュースを見る度に、涙が出ていた。

ひとり暮らしだから、見栄も体裁も要らないし、泣きたいときは泣くのが当然だから、それは問題ないのだが、鼻が詰まって、息苦しくなるのは困る(笑)しかし、事故の遺族に対して嫌がらせ電話が相次いでいるという。たしかに、私が見ていても、遺族の言動の中には、少し「決まりすぎの感じ」を受けることがないわけではないが、さすがに、タブーのない私でも、そこまで突っ込む気にはなれない。

自分のことと言えば、昨年7月は散々だった。母の脳出血の一週間後に父が急逝、そして、今考えてみると、私のALSも、そのころに発症していた可能性もある。

まあ、不運が重なったとは言えなくはないのだが、そのことについて、郷里で「あの家は呪われている」と言いふらしているバーサンが居るらしい(笑)。

まあ、非常に頭の悪いバーサンなので、二つのことに気が付いてないのだ。

一つは、「呪われている」ということは、「呪っている人間が居る」ということに気が付いてない。

神道は、ある意味で「呪いと、それを振り払う方法」が根底にある宗教体系だし、仏教も、密教系を中心に、やはり「呪いに対する対処方法」と「呪いの方法」という側面もある。

神が呪うのではなく、人の怨みと呪いを払うために神に祭り上げた例は多い。平将門しかり、菅原道真しかり。つまり、我が家族の「不運」が「呪われた結果だとわかっている」バーサンは、「自分が呪っている張本人だ」と自爆しているようなもんだ(笑)。

もうひとつは、「呪いに効果がある」のなら、「呪いそのものが刑法犯になることを認めている」ことになると言う点だ。まあ、そんなアホな物に効果はないから、刑罰的には問題がないかも知れないが(笑)

どちらにしろ、人を呪わば穴二つ、とはよく言った物で、因果応報を信じていればいるほど、本来は、そんなヤバいことを言うべきではない、と考えるのが普通なのだろうが、面白いことに、「因果応報を信ずる」ような杜撰なヤツほど、こういう墓穴を掘るようなことを平気でやってしまうようだ。

もっとも、人の痛みをわからないようなアホだからこそ、そういうことを平気で言って、しかも、自分の痛みには不感症的な、痛覚欠損症のようなヤツなんだろうなと思う。

哀しいときに泣ける自分であることに誇りを持つからこそ、アホな電話を掛けたり、「呪われてる」なんて平気で言いふらすパーソンには決してならないであろう事に安堵を感じる。

それにしても、言いふらしてるパーソンは、それが相手方にすぐ伝わると同時に、「そう言うことを言いふらすような人間だ」と思われることで、すでに、自分の価値を下げていることには、気が付かないんだろうな（笑）

捨てる

2005/05/23

手足の進行は進んでいる。

左手は、手を上に上げることが辛くなっているし、親指の弱りは右手の爪を切るときの爪切りを使えなくなっている。

足の弱りも、そろそろだ。歩くときは、月面歩行のようにフワフワとしている（笑）。

太腿や二の腕も、少しずつ削げてきている。それが目に見えるから面白い。なにしろ、体重は、最重量期の74%まで落ちてきた。究極のダイエットだ。

「舌の萎縮」というのも、イメージでしか理解していなかった。ふと気が付いて、舌を思い切り突き出して見た。どう頑張っても、唇どころか、歯の裏側までしか届かない。指で舌を掴もうとしても、舌の裏側の舌を支えている部分まで2cmもなくなっていた。「あかんべー」すら出来ないわけだ（笑）。

埼玉でひとり暮らしをしながら、引っ越しのための準備を始めた。

人は生き残ることを前提にしていることがよくわかった。「もしかすると使えるかも知れない」と思うと、つい捨てることに躊躇してしまうわけだ。

残りが見えてくると、要らない物が見えてくる。本と映画のライブラリーは残す価値がある。息子が読んで見てくれる。入手困難な本も少なくない。金はないが、知的財産が、唯一の遺産だ（笑）。

自分の物は、ほとんど要らない。下着は別として、上着もほとんど不要になるだろう。エレ無しの5階の自宅から、ごみ捨て場まで、手足が弱りはじめている体では、一度に大量のゴミは持てないし、何回も往復する体力もなくなりつつある。それでも、身の回りの物が少しずつ減って聞いている。

過去の整理も進んでいる。少年期の作品の大半は再発見できた。手紙類も捨てた。記憶は頭の中だけで良い。

その中で、もう一度逢いたいのは数人しかいない（笑）。といっても、逢えないだろうし、逢わない方が良いだろう（笑）

機能を捨てて、筋肉を捨てて、物を捨てて、過去を整理して、随分スリムになりつつある。

問題は一つしかない。

硬い寝床が好きで、カーペットだけの床に寝ることが一番好きだったのだが、尻の肉が落ちてきたせいかな、それでは硬くて痛くなってきた。これには困っている（笑）

人と逢う

2005/05/23

人と逢いたいと書いた。過去のことだ。

人はなぜ人に逢うのだろうか？

「話があるから」

「飯でも食おうか」「飲むか」

現在、外で食べることが出来るのは、豆腐くらいだ。それも、何も乗ってない、豆腐だけの物をスプーンでなら。という前提付きだ。かろうじて、マグロ程度の刺身は食べれなくはない。ただし、小さく切った上に、指か箸を口の中に入れて、舌の手助けをしなければいけない。人前では無理だ（笑）

酒は飲める。しかし、嘔き出すため、常に片手にタオルを持ってなければいけない（笑）。

1対1なら、筆談での「話」はできる。複数の人と逢うと、難しい。隣に座った人としか話せない。そんな状況で、多くの人と逢うと言うことは、かえって寂しい。

見つめ合うだけで良いような相手や、抱き締めることが出来る相手なら、それなりの意味があるのだろうが。

先天的な発語障害の人とは感覚が違うと思う。贅沢かも知れない。

手話がわからないし、手話を憶えて使えるようになるまでの時間も残されてない。映画なら行ける。聞くことは出来るからだ。

言葉の通じない国で、「話にお出でよ」と言われるようなものかも知れない。

妥協

2005/05/26

信念があるとして、あるいは、その場でこれが正しいと思って、それを貫き通せるような生き方をしたかったし、有る程度は、そうしてきたと思う。ピアノ弾きにしろ、物書きにしろ、フリーというのは、「職を捨てる自由」もあるからだ。随分、我が儘を通し、ケンカをして、辞めた店や、陽の目を見なかった単行本も多い。信念だけではない。書く気が無くなったという理由で迷惑を掛けたり、間に合わなかったこともある。もちろん、私が正しかったとは言わない。

それでも、妥協したこともいっぱいある。間違っていないと思っても、謝ったこともある。「職を捨てる自由」とは「食えなくなる自由」でもあるし、生活のために我を折ったり、他の人への影響を考えて気が進まない仕事を続けたり、もちろん惚れた女に対しても、だ。

基本的に、「自分が正しい」ということは、「相手も正しい」のだ。「自分だけが正しい」と思うのは単なる狂信バカだ。お互いの「正しさ」の中で、「自分の正しさ」をどこまで貫き通すかは、状況判断と、その中でのバランス感覚が必要なのだろう。

ALSになることで、私が「怖いモノが無くなった」というのは、そう言うわけだ。「状況判断とバランス感覚」のなかには、「これからも生きていかなければならない」という要素が非常に大きい。数年で終わると言うことがわかれば、当然、バランスは我が儘の方に傾く（笑）

その逆が、宗教だ。「来世があり、あるいは神の裁きがある」という狂信は、「安心して現世で自分の正しさを狂信できる」ということだ。だから、自爆テロが起きるし、特攻隊ができる。

そう言う意味で、小泉というバカは、狂信者か、自己陶醉者か、死期を知らされた患者に違いない（笑）

人と人の関係と同じように、国と国の関係もそうなのだ。自国のため、自国の正しさ、がぶつかりあって、それを調整するのが外交なのだ。

個人として靖国へ参拝するのはそれは自由だ。しかし、この時期にあのような発言をすると言うことは、

信じられない。「自分だけが正しい」と思っている自己陶醉型狂信者か、独裁者か。少なくとも、バランス感覚があるとは思えない。

ハルノートはたしかに過酷な要求だった。だから、開戦したとい論理も有る面では正しい。しかし、「開戦せず妥協する」という道もあった以上、「戦争しかなかった」というのは嘘の論理だ。

小泉の言動を認めると言うことは、例えば、死が確定した私が個人テロをするという考えを持っても容認すると言うことだ。

我が儘になり、怖いモノが無くなった私ですら、これからも、まだまだ、妥協をし、我を折らなければいけない。当たり前のことだ。死ぬまでは、人と接する必要があるからだ。

人との接し方、国との接し方を知らない人が首相であるこの国の将来・・・そか、もうすぐどうでも良いことになるんだ（笑）

赤ちゃんの首への道

2005/05/31

多分、私が、椅子に座って、本を読んでいたとしたら、私が病気であることは気づかれないと思う。首が真っ直ぐな状態で動かす必要がなければ、頸椎カラーを外しても問題ないからだ。ただ、アイスコーヒーをストローでかき回していたのに、ストローを使わず飲んでいるし、手にはタオルを持っていて、タオルがコーヒー色に染まるのを見たり、むせこんだりするのを聞くまでは（笑）。

首の筋力の弱りが、こんなにも厳しいものだとは思わなかった。時計を見ようと、昔の習慣で、軽く首を左に向けたとたんに、グギッと音がして、筋が強ばる。あるいは、睡眠中にふと目が覚めて首を上げようとしても上がらない。胴体から離れた首を自分で持っているホラーコミックのように、自分の手で、下から押すように持ちあげてやらないとダメだ。散髪に行き、頭を洗って貰うときも要注意だ。軽く頭を揺られるだけで、ヤバイ（笑）
要は、生まれたての、首の据わってない赤ちゃんと同じなのだ。

バイクに乗っていた時代に、ヘルメットのサイズで苦労した、頭囲63cm超の頭を持ちあげてくれる、頼りのその手も、段々弱ってきている。2リットル入りのペットボトルからお茶を注ぐときも、両手でやった方が安全だ。

ALSの初期症状は色々なタイプがあるようだが、私の以下のような症状は、以外と気が付かないようだ。ネットにも余り記載がない。もしかすると、私だけなのかも知れないが、その後の進行で酷くなったことを考えると、基本的には、「息をするための鼻と喉の使い方」に関連していると思うので、参考のために列挙しておく。

- ・鼻をかむのが下手になる
- ・息を詰めるのが下手になる
- ・大便時などに「イキ」むことが困難になる
- ・飛行機などの気圧変化時の「耳ツン」を解消するための「耳抜き」が難しくなる
- ・ストローで吸い込むのが難しくなる
- ・風船を膨らすことができなくなる

もし、言葉の発音が少しおかしくなったとき、上記のような症状が出たら、神経内科を受診することを薦める。もしかしたら、赤ちゃんへ戻る始まりかも知れないからだ。

ETC とドライブ

2005/05/31

過去を整理しているだけでは面白くない（笑）
残りは少ないが、新しいことにも挑戦しなければ。

前回の、「高速道路身障者割引手続き」のドタバタの中で、面倒だから、ETCを装着することにした。ETC導入のための助成制度のほとんどはもう終わっているが、「身障者のための1万円助成15万人」枠は、まだ少し残っているようだったからだ。

某車専門チェーンで調べたら、一番安い物で9000円だが、取付工賃と登録などの諸経費を合わせると1万6千円を超える。それでもいいか、と頼もうとしたら、4時間待ち、ということで撤退（笑）
ネットで調べたら、登録込み（工事はなし）で、代引き送料等を含めて9700円の物を見つけた。工事も、手が思うようにならない今のような状態では自分出来るはずがないので、やはりネットで見つけた「シガーライター直結工事（笑）」をすることにして、5800円の物を買ってきた。合計で1万円を超したので、実費以上の助成を受けるのは嫌だという引け目が無くなった（笑）。

カッターと絶縁テープで不格好だが、配線の準備をし、取り付けて、テスト走行。説明書には「取付角度」について、すごく厄介なことを書いてあったが、私の想像通り、かなり余裕を持たしているようで、アバウトな取付で問題なく成功。

ただ、当初思っていたように、障害者割引と深夜割引などの時間帯割引の併用は出来ないようですこし残念。まあ、時間を気にせず走れるだけで良しとするか（笑）

ほぼ、第一次見納め遠征の行程を決めた。

山形から酒田市に抜けて、そこから日本海沿いを北上する。岩木山を回り、昔から興味があった十三湊を中心に津軽半島を周り（もちろん、東日流外三郡誌なんて偽書は信じてない（笑））、弘前、そして青森の三内丸山遺跡から、恐山、下北半島を一周し、大湯環状列石まで足を伸ばす。そのあとはフェリーを使い、ちょっと北海道まで足を伸ばし、旭川、二風谷、白老のアイヌ博物館を周り、茨城までフェリーで帰ってくる、という日程だ。

約11日。そのためのおかゆパックや使い捨て容器などの準備も始めた。

仙台に2年間住んでいたし、中三の夏には1人で宗谷岬から東京まで自転車で走り抜けたこともあるのに、とうとう未見だった、津軽、下北、そして秋田青森の日本海沿岸部を見ることが出来る。

何かがあるのだろうか？

今回は誰とも会えないが、始めて見る風景への期待にワクワクしている。